
探求

漆原恭太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
探求

【Nコード】
N5166K

【作者名】
漆原恭太郎

【あらすじ】
高校を卒業して初めての職場で・・・

それは初めての職場だった。

商業高校に通っていた。卒業してから特にやりたいこともないの
で、とりあえず就職することにした。学校に来ていた求人情報の中
から適当に選びやがて適当に選んだ会社の面接が行なわれた。

面接官はお腹がものすごく出っ張り、頭は多少薄く、顔は脂ぎっ
ていて、眼鏡をかけている中年のおっさんだった。おっさんはイラ
つく話し方だった、妙に鼻にかかったねっとりとした声。聞してい
るだけでムカムカしてきた、面接の時どんなことを聞かれたのか覚
えていない。おっさんの話し方にイラついていたからだろう。本当
に小さな町工場といった風情の会社だったので面接という感じでは
なく、採用されることは決まっている顔合わせみたいな感じ。とに
かくこの会社で卒業したら働くことになった。

無事高校を卒業して働き始めた。どんな仕事かと言えば船の部品
を作る工場だったはずだ・・・短い期間しか働いていないので記憶
があいまいだが。とにかく毎日訳の分からない鉄の板や、筒状の物
なんかにネジ穴を作ったり形を整えたりしていた。終わってから鼻
の穴や耳の中をほじくると指が真っ黒になった、なんとなく体には
よくなさそうだなと思ったりしていた。

イラつく話し方をするおっさんは常に事務所にいて、会えばとん
でもなくつまらない冗談を言ってきた。最初のうちは愛想笑いをし
ていたがだんだんそれも面倒になってきたので無視するようにした。
その他の従業員も中年から初老にかけての男性ばかりだった。

自分に仕事を教えてくれる工場長はいい人だったのだが、くぐも
った声でこによこによしゃべるので何を言っているのか理解するの

に苦勞した。まあまあ体格はよく頭は禿げておらず、綺麗な白髪だった。工場内ではいつもタバコを吸っていた、フィルターぎりぎりの所まで吸っていた。あきらかに吸いすぎだった。

ある日仕事をしていると工場長に

「この棚をあっちに運んどいて」

3回くらい聞きなおしてようやく聞き取れた。いつもぶつきらばうなもののいいだったと言葉に棘はなく嫌な感じはしなかった。言われた通り鉄製の棚を工場内にあるクレーンで棚を移動させた。クレーンと言っても天井からワイヤーが吊るされていてその先端にフックが付いており、それを手元の小さな機械で操作するものだった。棚を言われた位置に動かした時一人のおっさんが怒鳴ってきた、もちろん従業員のおっさんだ。

「おい！ そんな所におくんじゃねえよ！」

言い方にカチンときたがそこはグツと堪えて

「じゃあどこに移動させましょうか？」

「そんなことはしらん！ とにかくそこは邪魔だ！どける！」

この一言で完全に頭にきた。棚はその場所に置いたまま、手元にあった工具をそのおっさんの足元に叩きつけてそのまま工場から出て行き、自分の車に乗り込んだ。おっさんが何か喚いていたが無視して家に帰った。

そのまま仕事を辞めた。

（後書き）

書き始めて日が浅いので何かアドバイス等があればお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5166k/>

探求

2010年10月14日04時14分発行